

八重山地区 石垣市における魚類養殖の普及

山田 真之

1. 年次到達目標

(1) 平成10年度

- ・魚類養殖の基本的知識の普及

(2) 平成11年度

- ・主要な魚病の知識（原因、症状、対策）

の普及

- ・魚病発生時の連絡体制の確立

(3) 平成12年度

- ・一般漁業者への魚類養殖普及

の普及

・販売体制の確立

・販売体制の確立

2. 実行した目標

○魚類養殖研究会の総会時に水試八重山支場

の中村研究員による養殖の基礎知識について

講演してもらった。

○平成10年度八重山地区試験研究成果報告

会において西海区水研の佐野氏が、平成10

年に八島養殖場で起こったアイゴの連鎖球

菌症の事例を中心に、イリドウイルスなど

魚病の基礎的な知識について講演してもら

った。

○一年間の養殖した経験から飼育密度、給餌

量、魚の健康状態などは各個人である程度

判断している。しかし、漁業者に確実に対

応できる魚病はハダムシだけである。他の

病気を見たことがないために、発生時の対

応に不安が残る。

○一年間の養殖した経験から飼育密度、給餌

量、魚の健康状態などは各個人である程度

判断している。しかし、漁業者に確実に対

応できる魚病はハダムシだけである。他の

病気を見たことがないために、発生時の対

応に不安が残る。

○一年間の養殖した経験から飼育密度、給餌

量、魚の健康状態などは各個人である程度

が提案された。これにより、養殖業者は25名程度いるため、一人当たりの面数は4面と決定された。これにより魚類養殖への新規参入漁業者を現在でうち切らざるを得なくなっている。八島養殖場以外でも漁業権はとられているが、距離的な問題や台風時の避難ができないこと、盗難に遭いやすい等問題が多く、他の場所で養殖を行っている者はいない。

○魚病の発生を防ぐ一番の方法は、養殖場環境の悪化をさせないことである。八島養殖場内で蓄養を行っている漁業者の中には死魚をなかなか掃除しない人がいるなど、養殖場環境に無頓着な人もいまだにいる。今後集まりの場等で死魚の持ち帰り等徹底させる必要がある。

○一年間の養殖した経験から飼育密度、給餌量、魚の健康状態などは各個人である程度判断している。しかし、漁業者に確実に対応できる魚病はハダムシだけである。他の病気を見たことがないために、発生時の対応に不安が残る。